

2019年7月7日（日）

第1回 近畿ESDコンソーシアム・森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年7月7日（日）13時～15時
- ◇会場 森と水の源流館
- ◇参加者 赤松、島、河野、新宮、中澤敦、尾上、北村、中澤 8名
- ◇内容

本授業づくりセミナーの概要

- 第1回：7月07日 ESD・SDGsの理解促進に関する講義
- 第2回：7月29日 ESDの学習理論と川上村宣言等、具体的な情報の提供（尾上氏）
- 第3回：8月06日 授業構想の検討（授業構想を持参すること）
- 第4回：8月31日 ESD学習指導案の検討（学習指導案を持参すること）
- 第5回：1月05日 ESD授業実践報告会

テーマ「ESD・SDGsの理解促進」

1. ESDについて

Education for Sustainable Development

目的：持続可能な社会づくりに参加・
参画できる人材の育成



1992年 リオデジャネイロサミット

ESDの重要性指摘

2002年 ヨハネスブルグサミット

国連ESDの10年提案

2005年～2014年

国連ESDの10年

(1) Educationの部分について

ESDは現代、先進国で行われている教育の変革を目指している。

① 現代の日本の学校教育

※学校には2つの役割がある。 個人的見地 ・ 社会的見地

「たんに事実や真理を吸収するということなら、これはもっぱら個人的なことから、きわめて自然に利己主義に陥る傾向がある。たんなる知識の習得にはなんら明白な社会的動機もないし、それが成功したところでなんら明瞭な社会的利得もない。」「学校の課業がたんに学科を学ぶことにある場合には、互いに助け合うということは、協力と結合の最も自然な形態であるどころか、隣席の者をその当然の義務から免れさせる内密の努力となるのである。」（『学校と社会』デューイ著、宮原誠一訳、1957年、岩波書店、26頁）

近代明治以降の立身出世主義・子どもの選別装置としての学校

※学校教育の目的：教育基本法第1条 よき 国民 を育てる

② 現代の先進国の学校教育

「現在教えられているような基礎教育では、より持続可能な社会は構築されないであろう。自分

たちのライフスタイルを支えるために大量の資源とエネルギーを消費し、最大のエコロジカル・フットプリントを残しているのは、教育が提供されている国々である」（「DESD国際実施計画（DESD-II S）」、ユネスコ、2005年）

③ 今、変わらなければならない教育

現在、多くの地球的諸課題があり、それが解決できないと人類社会の存続が危うい。

「われわれは、今からでも軌道修正は可能だと考えている。そうすることで、地球のすべての人たちが望ましく、十分に足りている持続可能な未来を生きられると信じている。しかし同時に、根本的な修正をすぐに行わなければ、私たちが生きている間に、何らかの崩壊が起こるだろうとも思っている」（『成長の限界 人類の選択』ドネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、ヨルゲン・ランダース、枝廣淳子訳、ダイヤモンド社（2005）、p.5）

地球的諸課題は、一国だけでは解決できない問題である。

→ よき 市民 を育てる教育

→ 社会的背景の異なる多様な人々と協働的に問題解決に取り組むことができる人材の育成

④ 次期学習指導要領と ESD

前文「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

(2) Sustainable Development の部分

ESD は社会変革を目指しています。

※ ESD = (開発) 教育 + (環境) 教育 + (人権・平和) 教育

※ ESD はこのままだと人類社会が持続できそうにないという認識から出発しています。人類社会の持続を阻む問題を列挙してください。（10個以上に挑戦）

気候変動、ジェンダー、格差社会、自然災害、生物多様性の劣化、貧困、飢餓、少子高齢化、エネルギー等資源の枯渇、核兵器、水不足、健康、テロ・紛争、砂漠化、海洋プラスチック、ゴミ、など



2. SDGs について

2015年 持続可能な開発サミット

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

2030年までに達成する17の目標と169のターゲット

(1) MDGs

2000年 ミレニアム開発目標

2015年までに達成する8つの目標（資料参照）

途上国の生活改善が大きな目標（人間開発・社会開発）

(2) MDGs の成果



①極度の貧困と飢餓の撲滅

1990年の貧困人口約17億人 → 2015年・8億人

②普遍的初等教育の達成

2000年の就学率・83% → 2015年・91%

③ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

1990年の女子の就学率は男子の74%

→2015年女子の方が男子を上回る

④乳幼児の死亡率の削減

5歳未満の子どもの死亡率は1/3に

⑤妊産婦の健康の改善

妊産婦の死亡率を1/4にが目標 → 1/2

⑥HIV/エイズ、マラリア、その他疾病の蔓延の防止

ほぼ目標を達成

⑦環境の持続可能性の確保 成果が上がっていない

(3) 残された課題

- ・約8億人が極度の貧困状態
- ・経済格差の拡大
- ・男女間の不平等（特に意思決定に関して）
- ・地球温暖化、生物多様性の保全
- ・戦争・紛争により毎日42000人が難民に

(4) SDGs の各目標に関して

①SDGsの17のゴールでMDGsを引き継いだゴール（6つ）

1・2・3・4・5・6

②環境問題に特化したゴール（4つ）

7・13・14・15

③経済開発に関するゴール（3つ）

8・9・12

④社会づくりに関するゴール（4つ）

10・11・16・17

(5) SDGs とESDの関係性

持続可能な社会の創り方

- ①持続可能なシステムの構築（政策・しくみ）
- ②持続可能性に寄与する技術開発
- ③人々の意識改革とライフスタイルの変革

①・②で目指す目標を示しているのがSDGs

③は教育が果たす役割なのでESDが担う部分

文部科学省：ESDはSDGsの達成に貢献する教育



5. 持続可能な地域とは

①地域資源(自然資源・物的資源・人的資源)の潜在的価値を見だし、再生能力を損なわない範囲で活用し続けていること【残して活かす】

※自立している自治体(資源・エネルギーを自給している自治体)が持続可能な自治体である

②モノ、サービス、人材が自前で調達され、循環し、有機的に結合しており、それが地域の新たな価値を生み出しつづけていること【つないで生み出す】

※地域内循環によって経済の持続可能性に寄与する

③地域資源の価値やそれを活かしてつなぐことの重要性を認識し、地域内外の人との信頼関係や交流、ネットワークを維持し続けていること【学んで助け合う】

※人のつながりや信頼感(ソーシャルキャピタル=社会関係資本)が充実している地域は持続する

※つながりや信頼感を維持するためには住民の地域への愛着や社会的活動への参加が不可欠であり、そのためには、学びの場や機会が存在することが重要である

6. 持続不可能な世界の状況

(1) 温暖化

熱塩循環について

(2) CO₂排出量の推移

